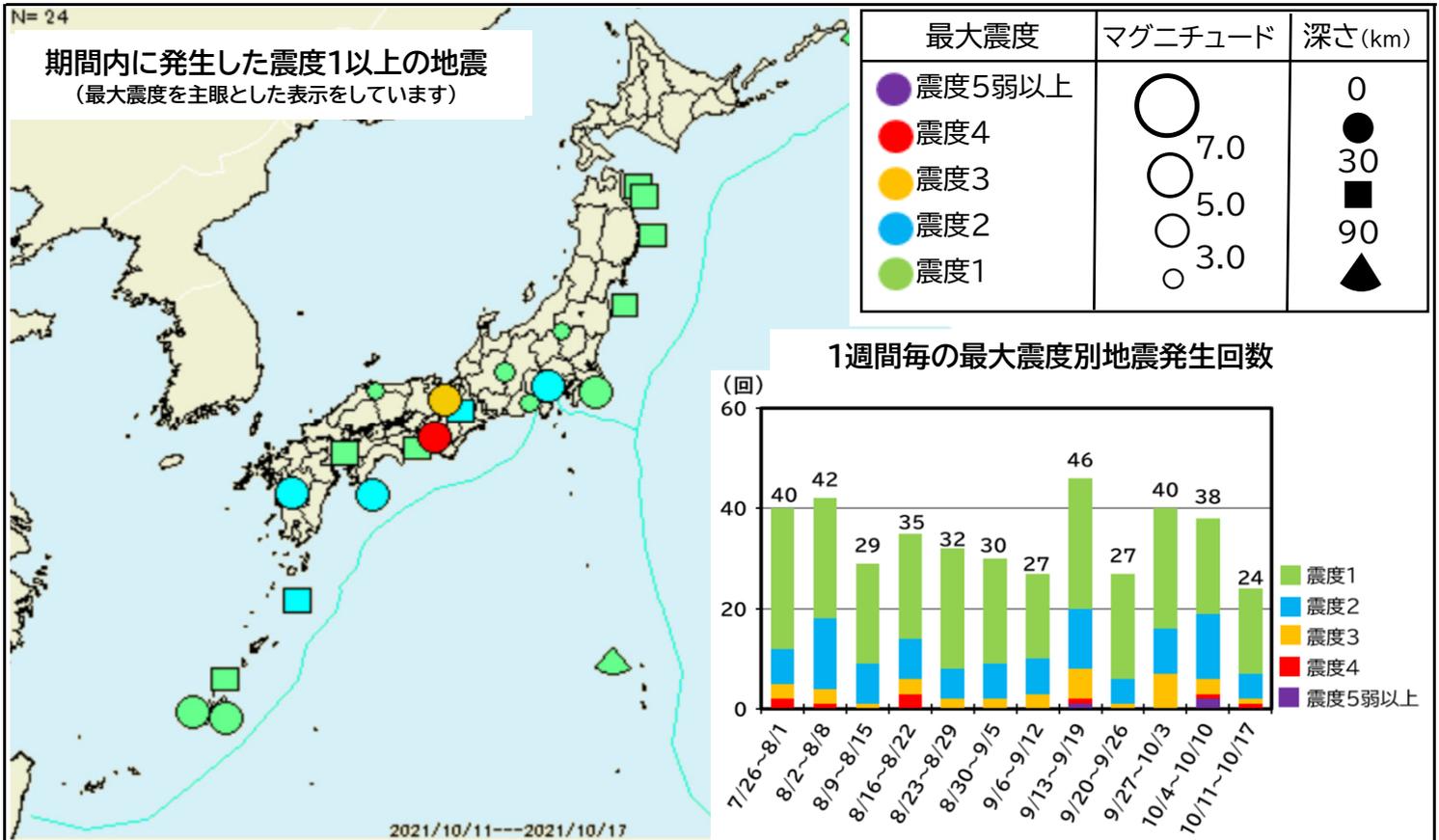


この期間の最大震度は4

本資料は上記期間に国内で発生した震度1以上の地震についてまとめたもの (出典:気象庁震度データベース/地震情報)



主な地震の発生状況

- この期間、震度1以上の地震が24回発生。最大震度は4(和歌山県北部)。
- ・15日07時57分に和歌山県北部で発生した地震(M3.3、深さ5km)により、和歌山県湯浅町で震度4を観測したほか、和歌山県内で震度2~1を観測。この付近は、定常的に活発な活動が見られる地域でM4を超える地震も時々発生している。
- ・16日21時48分に京都府南部で発生した地震(M3.9、深さ12km)により、京都府京都市・亀岡市・南丹市で震度3を観測したほか、滋賀県から兵庫県にかけて震度2~1を観測。この付近は、定常的な活動がみられ、1998年以降、年に1回程度は震度3の地震が発生している。

トピックス

■ 新潟県中越地震から17年 現在の地震活動など ■

- ・2004(H16)年10月23日午後5時56分に新潟県中越地方で発生した地震(M6.8、深さ13km)により新潟県川口町(現、長岡市)で震度7を観測、新潟県内の広い範囲で震度5弱以上を観測したほか、隣接する福島県などでも震度5弱を観測した。
- ・この地震による家屋の倒壊や土砂崩れなどで、死者68人、重軽傷者4,805人、住宅全半壊16,985棟(消防庁調べ)の甚大な被害を受けた。
- ・M6を越える規模の大きな余震が多く発生し、本震を含め10月末までの最大震度別回数は下表のとおり。
- ・震度6強を観測した山古志村(現、長岡市)は、土砂崩れで集落が孤立したため、地震発生2日後の25日に隣接する長岡市に全村民約2,200人が避難し、約3年間の避難生活を送った。
- ・被災住宅件数多かったため避難所が混みあったこと等から車中泊を強いられた人が相次いだ。こうした人がエコノミークラス症候群によって亡くなった「災害関連死」の事例が確認され、その危険性がクローズアップされた。
- ・最近の地震活動にまった活動は見られない(図1の赤丸が今年1月以降に発生した地震)。
- ・図2は地震回数の積算図で、この図からも2010年頃まではまとまった地震活動が見られるが、近年は静穏であることが分かる。

■ 1997年10月以降の地震発生状況(M≥2.0)
赤色:本年1月以降に発生した地震
灰色:赤色以前に発生した地震

